

2024年度 決算説明会資料

- ※ 本資料に記載されている業績予想、並びに将来予測は、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に
依拠していますが、その正確性、或いは完全性について、当社は何ら表明、及び保証するものではなく、
実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている業績予想、並びに将来予測とは異なる可能性が
あることをご承知おきください。
- ※ 本資料は百万円未満を切り捨てて表示してあります。



中越パルプ工業株式会社

目次



I. 2024年度 連結決算概要

1. 連結業績概要	1
2. セグメント別損益	2
3. 連結営業利益増減内訳	3
4. 連結有形固定資産増減明細	4
5. 連結キャッシュ・フロー計算書	5

II. 2025年度 連結業績予想

1. 連結業績予想	6
2. 連結営業利益増減内訳(計画)	7

III. 中期経営計画2025 取組み状況

1. 概要	8
2. スケジュール進捗①②	9,10

3. 事業ポートフォリオ(売上高構成)	11
---------------------	----

4. nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速	12,13
--------------------------------	-------

IV. トピックス

1. サステナビリティ(ESG)活動 –環境–	14,15
2. サステナビリティ(ESG)活動 –社会・ガバナンス–	16

V. 参考資料

1. 連結業績推移	17
2. 連結自己資本利益率(ROE)推移	18
3. 連結有利子負債残高推移	19
4. 連結設備投資・減価償却費推移	20
5. 原燃料価格推移(対2016年度比較)	21

連結業績概要



主な変動要因	(単位：百万円)	2023年度	2024年度	増 減
紙：[数量] 〈国内〉クラフト、印刷用紙、衛生用紙 販売数量増 〈輸出〉アジア地域を中心に拡販 パルプ：円安・市況回復等により販売金額増	売 上 高	107,826	111,009	+ 3,183
	営 業 利 益	6,172	4,843	▲ 1,329
	経 常 利 益	6,820	5,114	▲ 1,706
	親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	3,701	1,761	▲ 1,940
◇数量増、効率改善 他 ◆原燃料価格・物流費の上昇、修繕費増	年 間 配 当 金 (円 / 株)	60.00	70.00	+10.00
	自 己 資 本 利 益 率 (ROE) (%)	6.9	3.1	▲ 3.8
増配(当初予想+10円/株)	減 価 償 却 費	5,926	6,165	+ 239
	為 替 レ ー ト (円 / US\$)	143.94	152.41	8.47円安
	ド バ イ 原 油 (US\$/bbl)	84	81	3安
	連 結 子 会 社 数 (社)	7	7	±0
	持 分 法 適 用 会 社 数 (社)	6	6	±0

セグメント別損益



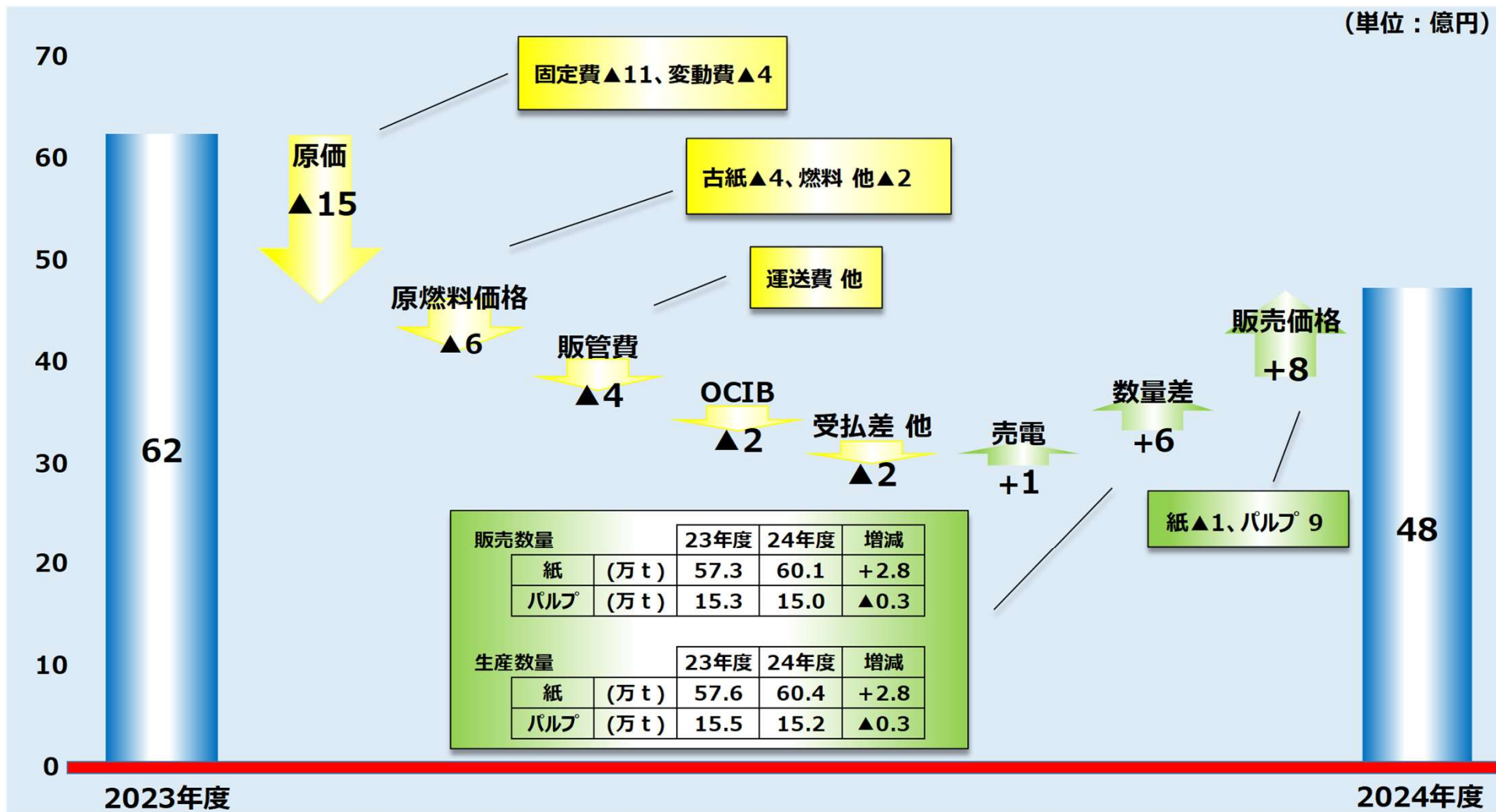
(単位：百万円)

		2023年度	2024年度	増減
紙・パルプ 製造事業	売上高	96,826	101,407	+4,581
	セグメント損益	5,512	3,663	▲1,849
発電事業	売上高	7,039	5,622	▲1,417
	セグメント損益	410	547	+137
その他	売上高	17,036	17,051	+15
	セグメント損益	279	544	+265
調整額	売上高	▲13,075	▲13,071	+4
	セグメント損益	▲29	89	+118
合計	売上高	107,826	111,009	+3,183
	セグメント損益	6,172	4,843	▲1,329

連結営業利益増減内訳



(単位：億円)



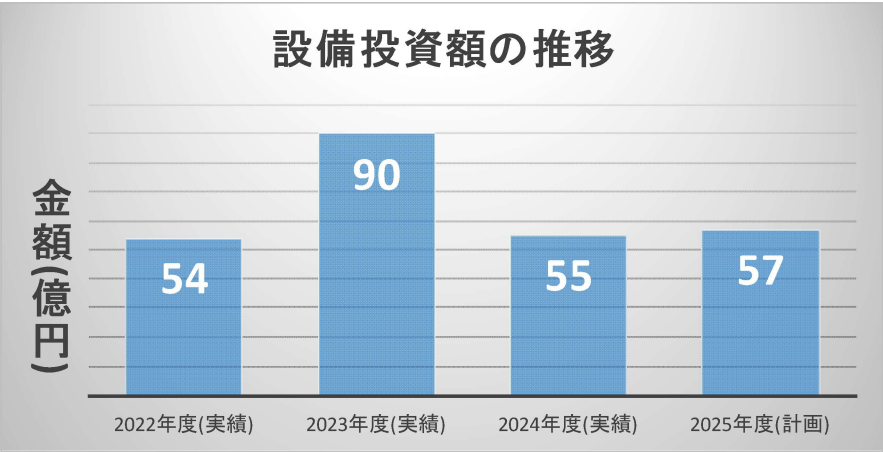
連結有形固定資産増減明細



(単位：百万円)	2024年3月末	増 加	減価償却	除却等	2025年3月末	増 減
中 越 パ ル プ	49,503	5,216	▲5,851	▲42	48,826	▲677
連 結 子 会 社	6,329	368	▲257	▲2,660	3,780	▲2,549
連 結 調 整	▲1,680	▲92	60	-	▲1,712	▲32
合 計	54,152	5,492	▲6,048	▲2,702	50,894	▲3,258

主なる増加の内訳

・東京本社再開発	5 億円
・高岡工場 4号発電機回転子更新	4 億円
・高岡工場 新港浚渫工事バイパスコンベア設置	4 億円
・川内工場 2 M/C ヘッドボックス更新	3 億円



連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)	2023年度	2024年度	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,564	10,360	▲3,204
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲7,905	▲6,013	+1,892
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3,102	▲6,012	▲2,910
現金及び現金同等物残高	10,670	9,005	▲1,665

営業活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

減価償却費 62、税金等調整前当期純利益 18、減損損失 27 他

投資活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

有形固定資産の取得▲64 他

財務活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

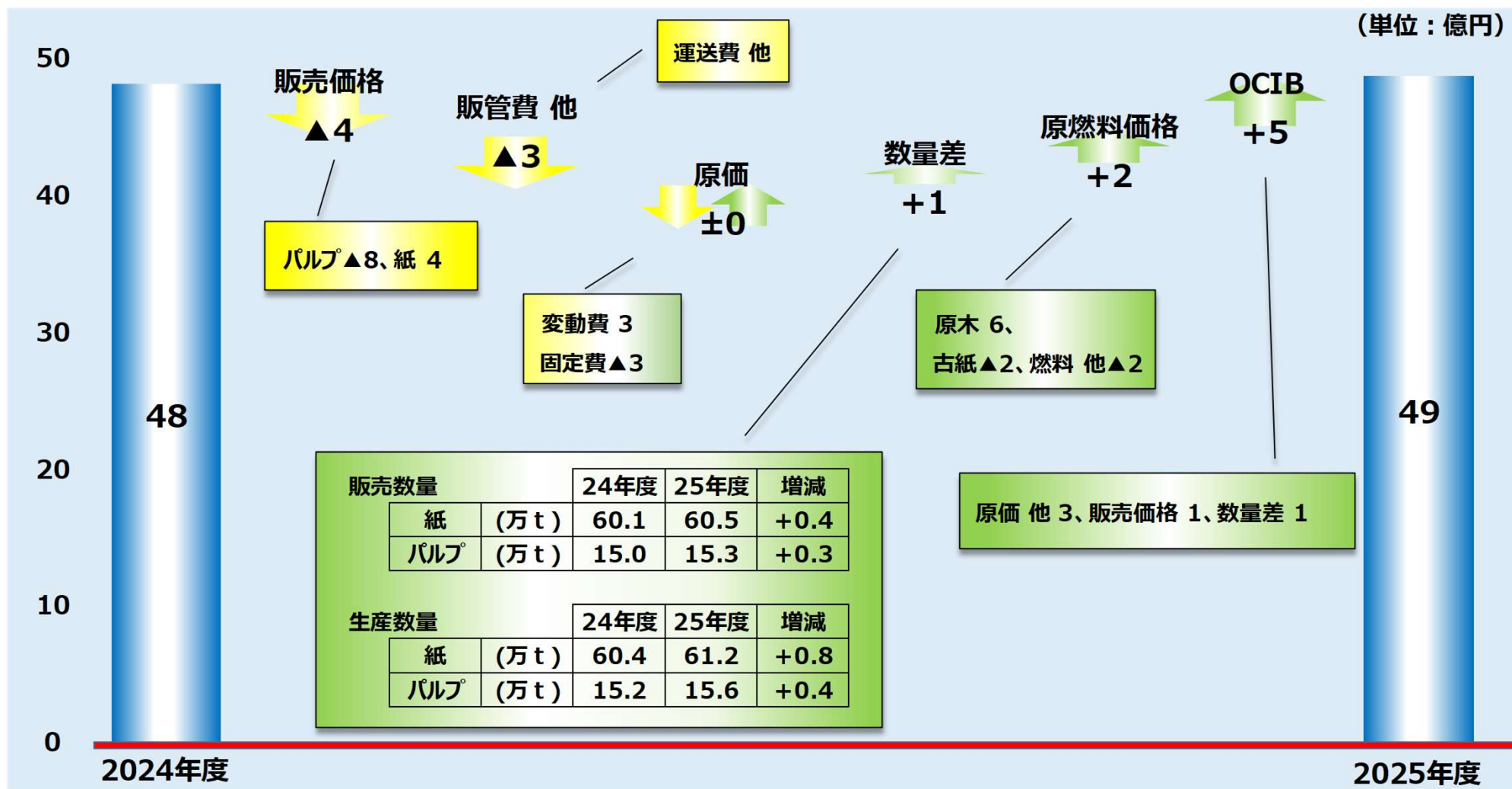
長期借入金の減少▲45、配当金の支払▲8 他

連結業績予想



主な変動要因	(単位：百万円)	2024年度	2025年度	増 減
紙：[売価] 〈国内〉価格改定実施 [数量] 〈国内〉衛生用紙 販売数量増 パルプ：円高・市況悪化等により販売金額減	売 上 高	111,009	112,000	+991
◇数量増、効率改善、価格改定、円高 ◆物流費・人件費の上昇	営 業 利 益	4,843	4,900	+57
	経 常 利 益	5,114	5,200	+86
	親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	1,761	3,500	+1,739
増配(前年度+10円/株)	年 間 配 当 金 (円 / 株)	70.00	80.00	+10.00
対US\$1円円安につき▲105百万円/年	自 己 資 本 利 益 率 (ROE) (%)	3.1	6.0	+2.9
1US\$/bbl高につき▲60百万円/年	減 価 償 却 費	6,165	6,100	▲65
連結子会社数の減少は、中越エコプロダクツ株式会社を2025年6月末を目途に解散することによります	為 替 レ ー ト (円 / US\$)	152.41	147.00	5.41円高
	ド バ イ 原 油 (US\$/bbl)	81	70	11安
2025年度の工場長期休転時期は、第1四半期と第3四半期に予定しております	連 結 子 会 社 数 (社)	7	6	▲1
	持 分 法 適 用 会 社 数 (社)	6	6	±0

連結営業利益増減内訳(計画)



中期経営計画2025 取り組み状況：概要



中期経営計画2025

- ①既存事業の構造転換（紙に占めるグラフィック用紙の比率減 75→60%）
 - (1)紙パルプ事業の生産体制再構築
 - (2)グループ関係会社事業の選択と集中による収益力強化
- ②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進

ビジョン2030

既存事業の発展・環境ビジネスの発展・イノベーションにより、森林資源の有効活用を通じた循環型社会の構築と持続可能な未来を実現する

<収益目標>

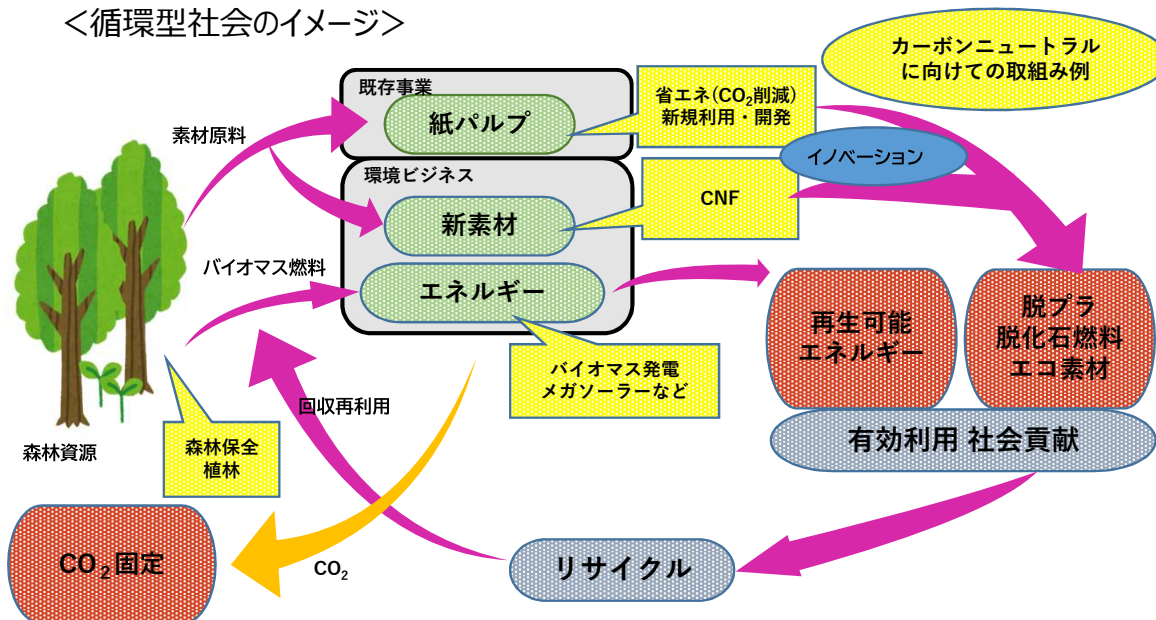
	中期経営 計画目標	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (計画)
営業利益	40億円	62億円	48億円	49億円
ROE	5%以上	6.9%	3.1%	6.0%

<2030年度 環境目標>

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、製造工程における化石燃料由来のCO₂排出量を2030年度までに2013年度比50%削減する。

	2013年度	2024年度	削減率 (2013年度比)
千t-CO ₂ /年	411	213	48.2%

<循環型社会のイメージ>



中期経営計画2025 取り組み状況：スケジュール進捗①



≪①既存事業の構造転換 進捗≫

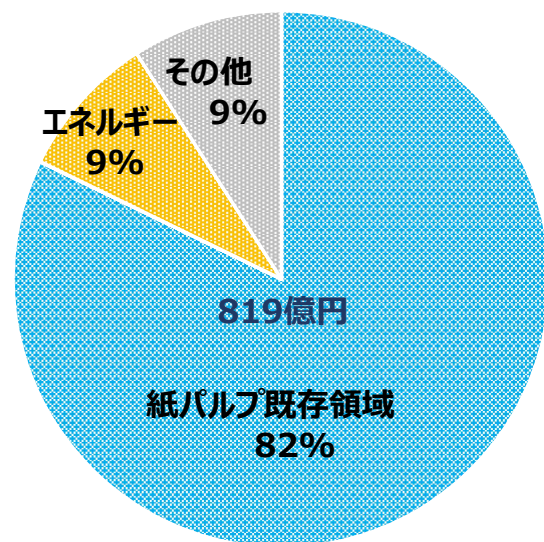
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
① 既存事業の 構造転換	(1)-Ⅰ 6号マシン停機	生産集約完了 ● 2022年9月末 高岡工場6号マシン停機				
	(1)-Ⅱ 家庭紙マシン新設		設置		稼働 ● 2024年2月営業運転開始	
	(1)-Ⅲ 事業領域拡大		パルプ増販 ● 生産体制強化完了			
		脱プラ需要など紙の新規利用の拡大 ● 2024年度外販パルプ販売量：2020年度比90.6%増				
	(2) 関係会社収益力強化	三善製紙営業権譲受完了・文運堂文具事業譲渡完了				

- 2024年2月に営業運転を開始した家庭紙マシンは順調に稼働し、品質においても好評をいただいています。今後もより一層の品質向上と生産効率向上に努めます。

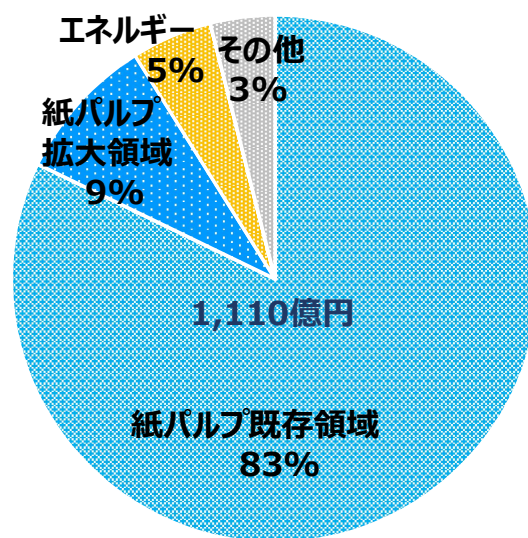
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
② 森林資源を活用した環境 投資・環境ビジネス推進	I CNF実用化・開発加速	高機能CNF ▶ 設備検証テストの実施、及びサンプル販売を通じた利用拡大の推進 nanoforestの新たな分野への利用拡大 ●化粧品原料への新規採用、エレクトロニクス分野での利用拡大				
	II 中越エコプロダクツ	製造設備試運転完了 ▶ 品質確認完了後、営業運転				
	III バイオマス発電(検討)	検討				
	IV 既存ボイラー脱石炭	削減取り組み中 ●2024年度実績：石炭使用量2020年度比65%削減(16,750t-CO ₂ 削減)				
	V 植林事業	2030年度までに1,000haを目標に実施中 ●2022年度より着手、順次拡大予定				

- 化粧品原料としての新規採用がありました。
また、松尾ハンダ(株)様が製造販売する当社CNFを配合したソルダペーストを採用する動きが多くの企業で進んでいます。
- 合併事業会社である中越エコプロダクツ(株)は、共同出資会社である(株)環境経営総合研究所が破産手続き開始決定を受けたことにより、解散することになりました。
今後は、新たな事業の可能性を模索するとともに、新たな形態での事業化に向けた検討を進めてまいります。

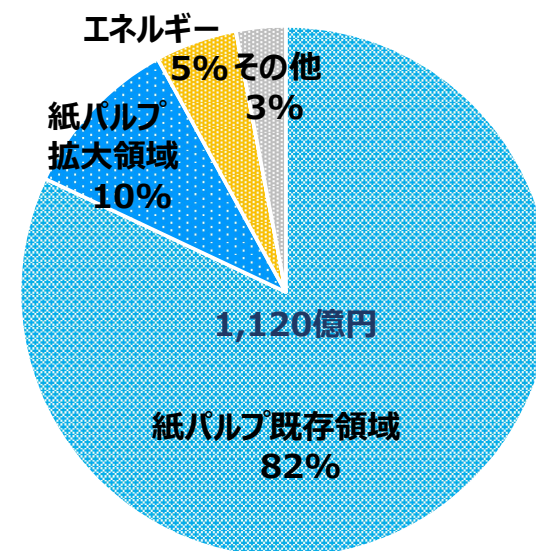
中期経営計画2025 取り組み状況：事業ポートフォリオ(売上高構成)



2020年度実績



2024年度実績



2025年度見込み

- 2024年度は外販パルプの増販や衛生用紙上市の影響などにより、9%の紙パルプ事業領域拡大(2020年度比)となりました。
- エネルギー事業は総売上高の拡大や一部の発電設備の停止の影響等により、4%減(2020年度比)となりました。
- 2025年度見込みについては、今期の計画を反映しております。

中期経営計画 2025 取り組み状況



nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

新規分野への nanoforest 展開

・エレクトロニクス分野への nanoforest 利用

プリント基板などへの電子部品の接合に利用されるクリーム状のはんだ（ソルダペースト）には高い品質特性が要求されます。松尾ハンダ株式会社ではこのソルダペーストに当社の竹由来CNFを配合し、外観形状の良化（液だれ抑制）、欠陥率の低減、接続信頼性の向上といった様々な品質を向上させた新商品を販売しています。近年、各社でこのソルダペーストを採用する動きが加速しています。

このCNF配合ソルダペーストは、販売当初からボイドと呼ばれる内部欠陥が激減することなどが分かっていたのですが（2020年11月のプレスリリース参照）、そのメカニズムが不明だったため、なかなか普及に至りませんでした。松尾ハンダ(株)では、これらの品質向上メカニズムの解明を神奈川県立産業技術研究所や富山大学との共同研究を通して試み¹⁾、展示会出展や神奈川県工業技術開発大賞の受賞²⁾などの成果もあり、現在、多くの企業で採用が進んでいます。

更なる普及拡大を目指し、当社としてもCNFの視点から後押ししてまいります。

1) Tanaka et al., JAPAN TAPPI J, 79 (2), 109-115 (2025)

2) <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/sr4/cnt/f108/index.html>



画像提供：松尾ハンダ株式会社

中期経営計画 2025 取り組み状況



nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

高機能CNFパイロットプラント建設に向けた取り組み

高解繊CNFは、川内工場に設置した実機設備での検証テストをほぼ終え、現在は製品及びサンプルの製造を行いながら、安定操業やコスト低減に向けた取り組みを行っております。高岡の研究室で検証テストを行っている疎水化CNF及びCNF成形体についても、高解繊CNF同様、製品及びサンプルの製造・販売を行い、客先からのフィードバックを品質や製造方法に反映させながら進めていますが、こちらは少し時間が掛かっている状況です。

昨今、社会情勢が刻々と変化し、客先からの要求品質も変わってきています。現行の検証設備における製造販売を通して利用拡大を図ると共に、状況の変化に柔軟に対応しながら進めてまいります。

1) nanoforest-S（高解繊CNF）

従来品よりも解繊を進め、高機能製品への適応性を向上させたCNF

主な用途：化粧品、農業利用、工業利用

2) nanoforest-M（疎水化CNF）

有機溶剤やオイルなどへの分散性を向上させたCNF

主な用途：化粧品、工業利用（オイルの増粘効果があり、化粧品用途では触感が改善）

3) nanoforest-CMB（CNF成形体）

nanoforest-Sを脱水乾燥させた軽量高強度な固形状の成形体

トピックス サステナビリティ（ESG）活動 –環境–



「ビジョン2030」にて掲げた「既存事業の発展・環境ビジネスの発展・イノベーションにより、森林資源の有効活用を通じた循環型社会の構築と持続可能な未来を実現する」ために、サステナビリティ活動を推進しています。

カーボンニュートラルに向けた取り組み



TCFD

TCFD提言に沿って事業への影響の分析を行い、重要なリスク・機会を開示。Scope1、Scope2は連結ベースでの開示をおこなっています。



GXリーグ

2024年度に新規参画。
2050年度カーボンニュートラル達成に向けたロードマップを策定し、省エネやボイラー燃料等の非化石燃料、低炭素燃料への転換等を推進しています。

カーボンニュートラル達成に向けたロードマップ

グループ環境目標

2030年度までに製造工程における化石燃料由来CO₂ 50%削減（2013年度比） 2050年までに製造工程における化石燃料由来CO₂ 100%削減、カーボンニュートラル

政府目標

2030年度	2035年度	2040年度	2050年度
46%削減（2013年度比）	60%削減	73%削減	カーボンニュートラル

外部環境

GXリーグ開始 排出量取引制度開始

取り組み内容

TCFD参画 GXリーグ参画

- 各工場で省エネ案件掘り起こし
- 南九州地区および富山地区における植林実施
- 二塚製造部 3号ボイラー脱石炭取り組み

●ボイラー燃料 脱化石燃料化

- 卒FIT電源の有効活用
- 木質バイオマス発電 メガソーラー発電

●非化石燃料、低炭素燃料への転換検討

●パルプ工程 石灰焼成キルン燃料 低炭素燃料へ転換（混焼化）

●CO₂フリー燃料専焼化



トピックス サステナビリティ（ESG）活動 –環境–



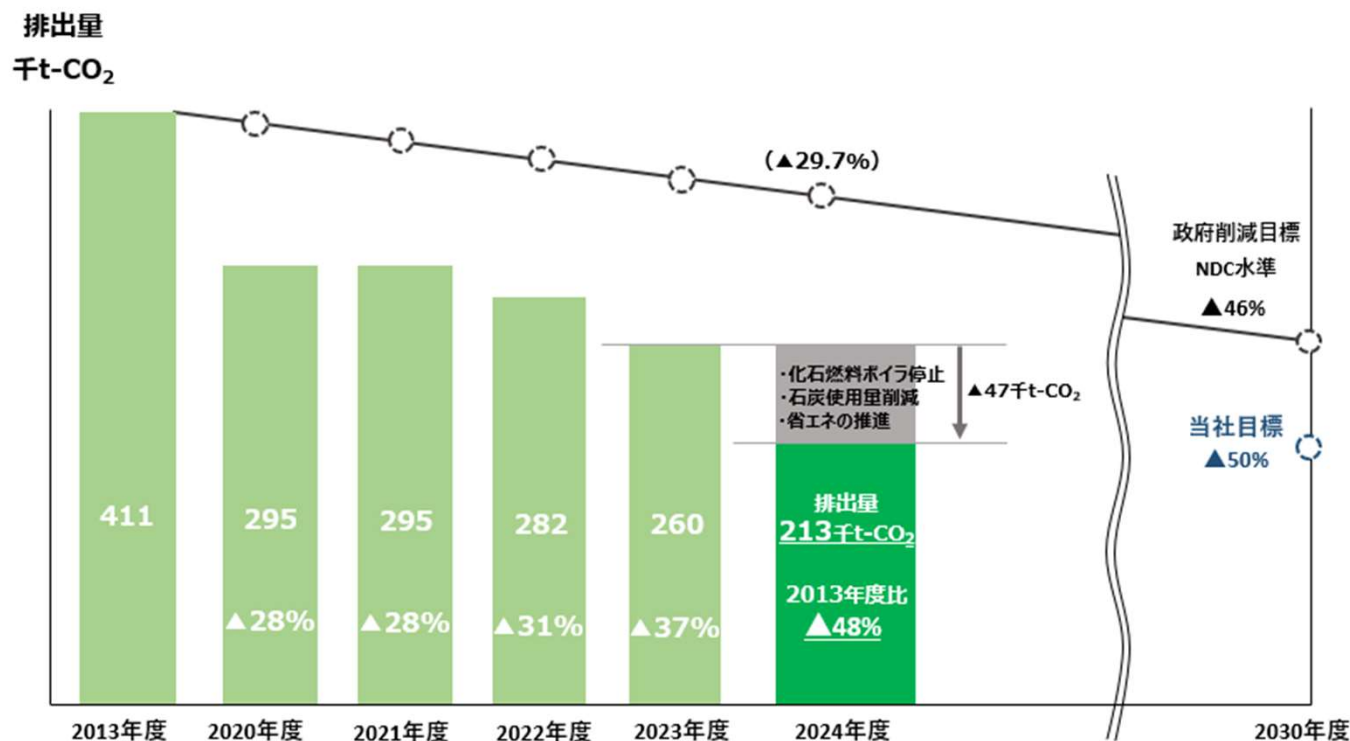
紙パルプ製造工程における 化石燃料由来CO₂排出量

2024年度削減実績
(2013年度比)

48.2%

化石燃料ボイラーの停止や省エネの推進、
既存ボイラーの脱石炭の取り組みなどに
より順調に化石燃料由来CO₂の排出量
削減が進んでいます。

化石燃料由来CO₂ 排出量推移・削減率(2013年度比)



トピックス サステナビリティ（ESG）活動 –社会・ガバナンス–



人権に関する取り組み

サプライチェーンにおける人権尊重の取り組みについて、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づいた人権方針を2025年3月に制定しました。本方針に基づき、人権尊重の取り組みをより実効的なものとするとともに、グループ従業員への周知教育を通じて人権意識の向上を図っていきます。

「中越パルプ工業グループ人権方針」は当社ウェブサイトに掲載しております。

<https://www.chuetsu-pulp.co.jp/sustain/human-rights/index.html>

人的資本の取り組み

「人材育成に関する方針」「社内環境整備に関する方針」を定め、2033年3月までに管理職に占める女性労働者・中途採用者の合計割合を25%以上、2026年3月までに育児休業取得率を男女ともに100%とする目標を設定し、取り組みを進めています。

管理職に占める女性
・中途採用者

2024年度実績

16.5%

2023年度実績 15.2%



育児休暇取得率

2024年度実績

86.7%

2023年度実績 42.9%



男性育児休暇取得率

2024年度実績

80.0%

2023年度実績 38.5%



女性育児休暇取得率

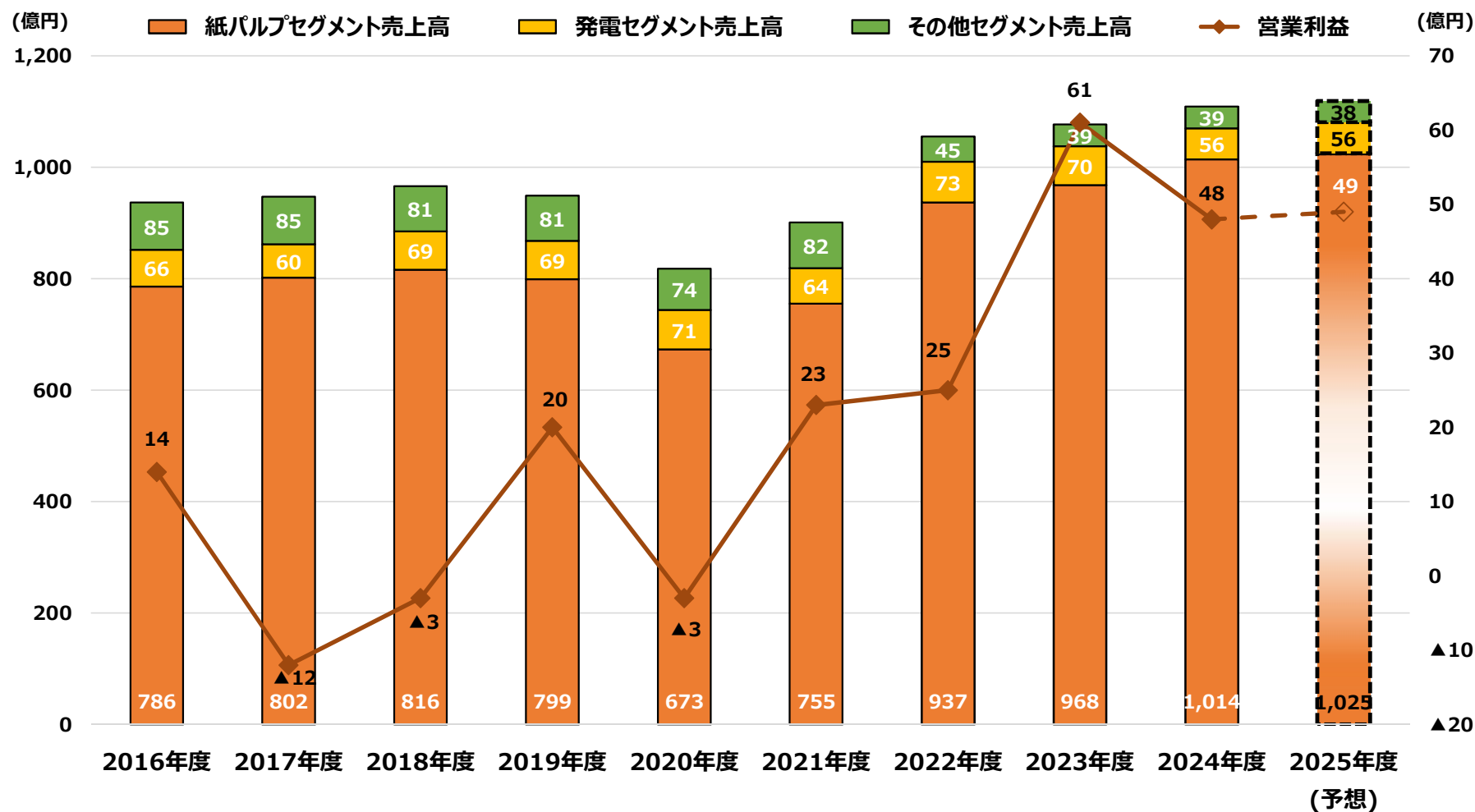
2024年度実績

100.0%

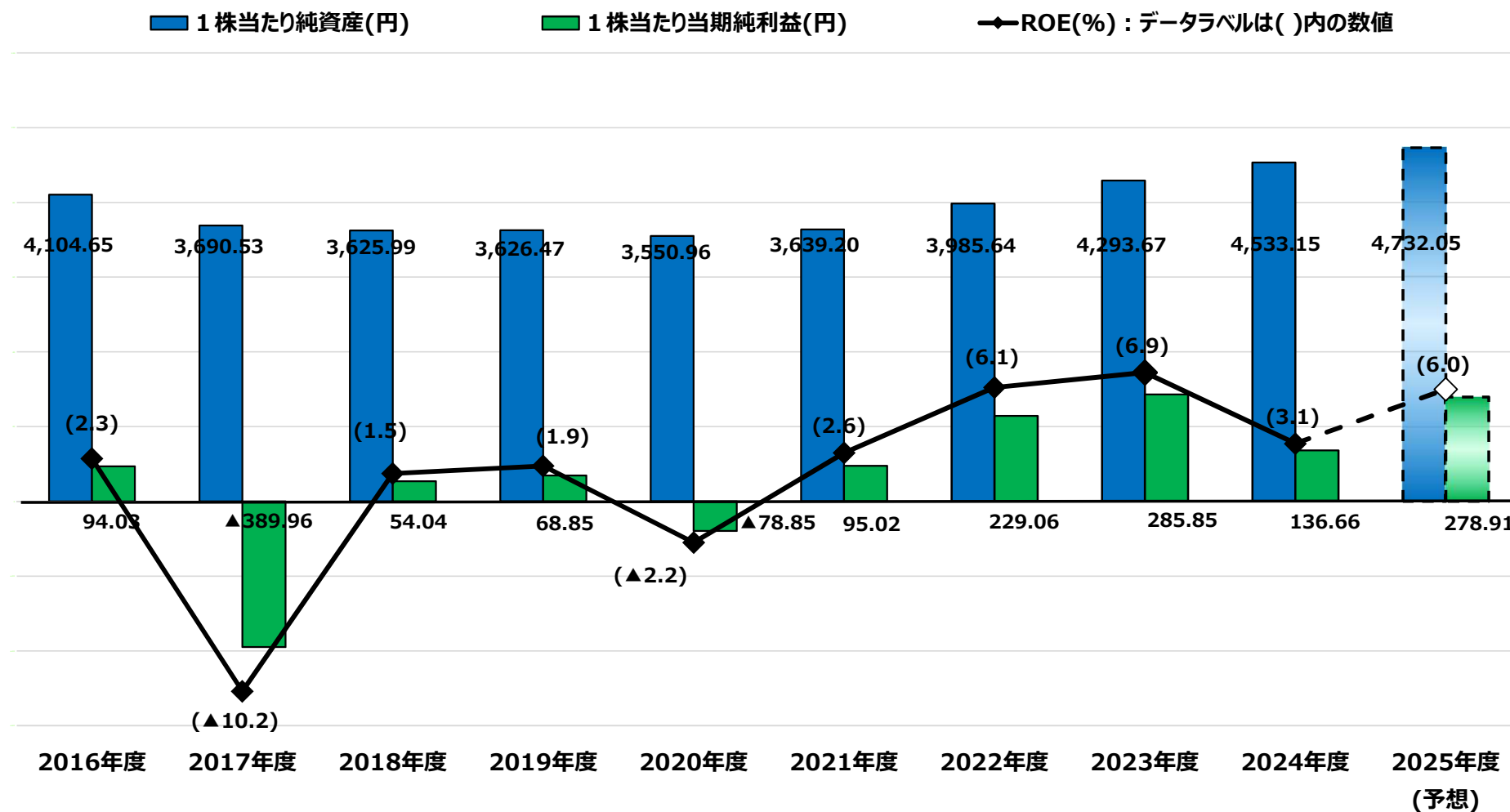
2023年度実績 100.0%



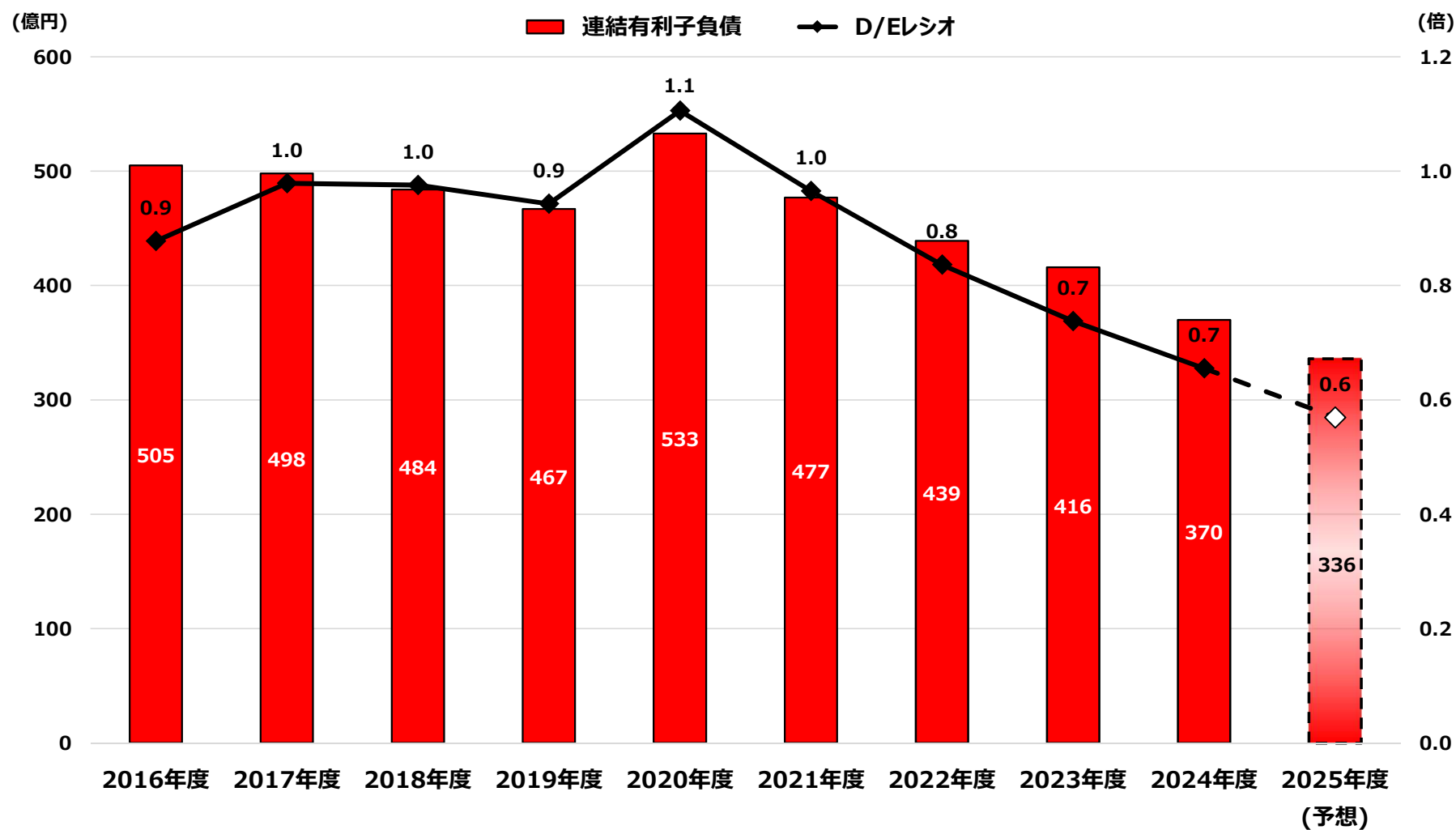
【参考資料】連結業績推移



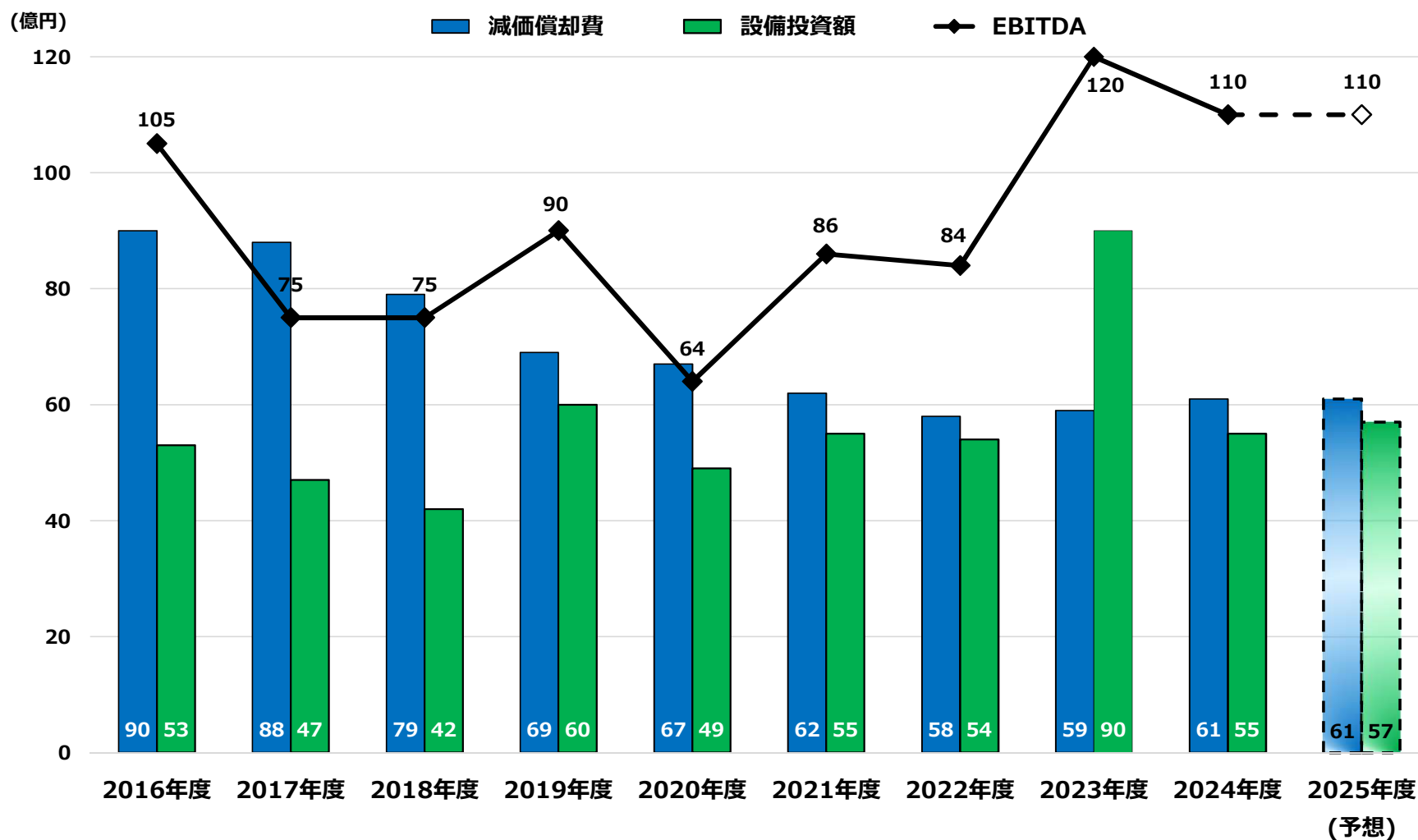
【参考資料】連結自己資本利益率(R O E)推移



【参考資料】連結有利子負債残高推移



【参考資料】連結設備投資・減価償却費推移



【参考資料】原燃料価格推移(対2016年度比較)

